

はにい 外国につながるのある子どもたち 平成26年4月21日

全校児童の約5人に1人「外国につながるのある児童」がいる小学校。約半数の児童が日本語指導を必要としています。授業の様子を見学させていただきました。

教室をパーティションで3つに区切り、「日本語指導学級」担当の先生2名、日本語指導協力者2名が児童たちの指導・支援にあたっていました。

教室の後方では、1，2年生5人が算数を勉強。「一、十、百・・・」と「くらい」の問題に取り組んでいます。

教室中央では、1年生女子がタガログ語の日本語指導協力者の方と漢字の書き取りをしています。鉛筆削りの使い方に苦戦をしながら、一文字一文字ていねいに書いていきます。

教室の前方では、来日して間もない4年生女子が、先生と日本語の学習をしています。『これは、何ですか。』

「これは、キリンです。」覚えた動物の名前を言うことができます。



隣の教室では、3，4年生3人が国語の授業をしています。『あなたがお花屋さんとして、お店の宣伝をしてみましよう。まずは、宣伝の言葉を書いて、前で発表できるよう練習しましょう』『チューリップやひまわりやバラがあります。皆さん是非来てください。』

チューリップ、ひまわり、バラの絵も丁寧に描いていきます。



小学校を後にして、学区内の中学校へ。3年生男子が高校入学者選抜のためのPR書作成をしています。

『自分はどんな人で、どんなところを変えたいと思っているの』

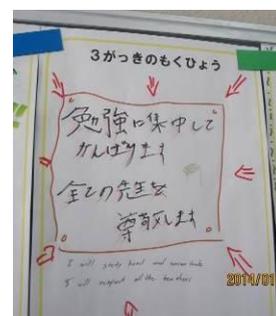
「人見知り。意見をはっきり言えるようにしたい」

『高校では、どうなりたいの』

「いっぱい話したい。友達と明るく過ごしたい」

先生の支援もあり、文章の骨子ができてきました

が、なかなか書き始められません。じっくりと自分の心と対話しているのです。



ふと黒板を見ると生徒たちの目標が張ってありました。その中の一つにはこう記されていました。

「勉強集中して頑張ります。全ての先生を尊敬します。」

『はにい』は、コミュニケーションツールです。 みんなで語り合いましょう。
ご意見・ご感想は → inochi4027@pref.kanagawa.jp